

イトヴェシュ・ローランド大学（ハンガリー）

春学期に私が履修しているのは以下の4講義です。

・ Fundamentals of Human Resource Management（3単位）

職場におけるHRM（Human Resource Management）の基本的な仕組みや方法を学ぶ。これら

を学ぶことで組織内での人材の管理方法についての実践的な知識、スキルの習得を目指す。

Lecture: 約600人（実際の出席者は3分の2ほど）
Seminar: 約90人

・ Negotiation（3単位）

交渉を成功させるための基本的背景（交渉の戦略と心理学的な観点）や交渉構造のモデルを学

ぶ。講義内では実際にグループワークを通じて学生の交渉力を向上させることを目指す。

Lecture: 約150人
Seminar: 約150人

・ Introduction to Cultural Anthropology（3単位）

文化人類学の定義や具体的なアプローチ方法、および理論を理解することを目的としている。ま

た講義を通じて異文化に対する感受性を養うことで、世界の文化の多様性を認識し、それらを理

・ Persuasion（3単位）

説得力のあるコミュニケーションについて理解し、それを習得することを目的としている。説得

に用いられる古典的および現代的なツールに焦点を当て、その技法や言葉遣い、日常生活におい

ての応用の仕方などを学ぶ。
Lecture: 約300人（実際の出席者は約200人）
Seminar: 約60人

アメリカス・プエブラ大学（メキシコ）

UDLAPへの入学を希望する高校生たち向けに開かれたオープンキャンパスのようなイベント「EXPO UDLAP」で、日本文化を紹介するワークショップを開きました。今学期UDLAPにいる日本人計3人で、私がメキシコに持ってきていた折り紙を使って鶴を折るワークショップを行いました。やはりアジア文化は珍しく目を引くようで、次から次にブースに人が訪れあつという間に100枚以上あった折り紙が無くなってしまいました。

日本の100円ショップで買った折り紙がこのような形で役に立って非常に良かったと思っています。特に、より日本らしいものを持って行こうと考え、単色ではなく柄入りのものを持っていたのでより一層喜んでもらえたように思います。

3月はあつという間でしたが、その中でも花が咲く季節が訪れたり、高校生たちと交流したり、新しい友人が出来たりと、初めての新鮮な経験をすることが出来ました。残り少ない留学生生活を大切に、やらなければいけないこともやりたいことも両方を大切に過ごしていきたいと思いま

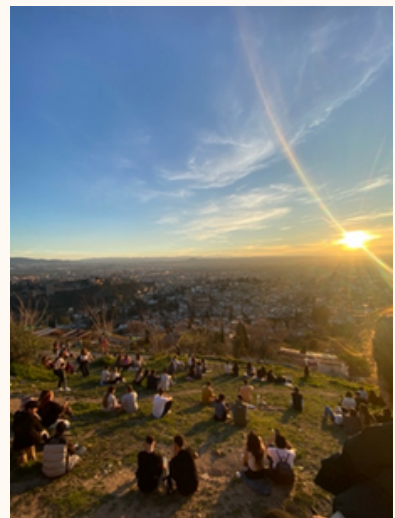
ナバラ大学（スペイン）

3月の中旬にアンダルシア地方のグラナダに行ってきました。高校の世界史で「アルハンブラ宮殿」について学んでからずっと訪れてみたいと思っていた場所だったのでとてもワクワクしました。スペインの南部なのでとても暖かく、3月でも日中は27度ほど気温がありました。私のいる北部と文化や気温、人柄が全く異なっていたので違う国に来たような感覚でした。バルでお酒を頼むとおつまみが無料についてくるところが北部との大きな違いです。北部にも取り入れてほしい文化です。

アルハンブラ宮殿はとても壮大で、圧倒されました。今までヨーロッパで見てきた教会や宮殿とは全く異なり、イスラム文化とヨーロッパ文化の融合を感じました。教科書の写真で見てきたものを実際に目で見ることでとても感動しました。

アンダルシア地方はフラメンコ発祥の地としても有名なので、本場のフラメンコを見てきました。間近で見ると迫力がすごかったです。何かが乗り移ったかのように舞っている姿に釘付けでした。女性だけでなく男性も舞っていて力強さに圧倒されました。

スペイン国内でもこんなにも文化が違うのかと驚かされてばかりでした。南部の方が「THEスペイン」という雰囲気でした。個人的にはバルセロナよりもグラナダの方がお気に入りです。



セントクラウド州立大学（アメリカ）

3月頭にあった春休みでは、ラスベガスに小旅行をしてきました。ネバダ州ラスベガスは、私の大学があるミネソタ州と比べて西側に位置している州で、全く気候も異なりました。正直、ミネソタでは毎日雪を見ていたので、地上に雪が積もっていない景色を見るのは久しぶりでした。ラスベガスは眠らない街として有名で、カジノやショーなど、遊ぶのには全く困らない場所でした。（カジノは成人=21歳以上でないと利用することができません。）

また、ネバダ州はグランドキャニオンがあるアリゾナ州にとっても近い為、1日ロードトリップのツアーに参加してグランドキャニオンを観に行ってきました。いつも映画などで観ていた景色が目の前に広がっており、言葉で表せないほどの感動を味わいました。